

水戸光圀による“御修理”330周年記念 侍塚古墳と栃木の前方後方墳

下侍塚古墳



上侍塚北古墳

TOCHIGI ARCHAEOLOGICAL CENTER
栃木県埋蔵文化財センター

上侍塚古墳

ごあいさつ

令和4（2022）年は、水戸光圀による侍塚古墳発掘（1692年）から、330年目にあたります。この調査は、栃木県のみならず全国的にみても学術発掘調査の嚆矢とされています。これを記念し、本特集展示では、現在進められている同古墳の調査成果を公開します。また、あわせて県内の主な前方後方墳を紹介し、古墳時代前期の状況を概観します。

前方後方墳は、ほとんどが古墳時代前期に築造されています。また、分布は東日本に多い傾向がみられます。栃木県では25基が確認されていて、そのうち16基が全長50m以上の規模を持っています。次に多いのが7基（奈良県・京都府）なので、栃木県はまさに前方後方墳大国といえるでしょう。展示をご覧になり、本県の前方後方墳についての理解を深めていただければ幸いです。

結びに、特集展を開催するにあたり、貴重な資料をお貸しいただき、またご教示・ご協力を賜りました関係者の皆様・関係諸機関に厚くお礼申し上げます。

令和5年1月15日

（公財）とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

所長 金田繁夫

目次

ごあいさつ	2
I 水戸光圀による侍塚古墳の発掘	3
コラム1 最初の学術発掘	4
II 栃木県埋蔵文化財センターによる侍塚古墳の調査	5
III 栃木県内の前方後方墳	6
コラム2 古墳調査の新技术	7
コラム3 前方後方墳ランキング	12
展示資料一覧	13

例言

- 本書は令和5年1月15日（日）から同年2月26日（日）を会期とする特集展示「侍塚古墳と栃木の前方後方墳」の展示リーフレットです。
- 資料の一部は展示替える場合があります。
- 各古墳図中の茶色は墳丘（テラス部分も含む）、緑色は周溝をあらわしています。

表紙 背景：侍塚古墳付近航空写真（南上空から）と赤色立体図を重ねたもの
資料：大金重貞著『湯津神村車塚御修理』表紙（個人蔵）
駒形大塚古墳出土文帯獣鏡（那珂川町教育委員会蔵）

I 水戸光圀による侍塚古墳の発掘

水戸（徳川）^{みつくに}光圀（1628-1701）は常陸水戸藩2代目藩主で、徳川家康の孫にあたります。上水道の敷設や寺社の整理など城下の整備に励む一方、文化事業にも熱心に取り組みました。中でも、歴史書『大日本史』^{へんさん}の編纂は有名です。

侍塚古墳発掘のきっかけは那須国造碑でした。地元の里正（名主）^{りせい}をしていた大金重貞からこの石碑のことを教えられた光圀は、倒れていた石碑を起こし、碑堂を建てて保護しました。また、碑文を解読して碑に書かれている人物（碑主）^{ひぬし}を明らかにしようと考えました。碑文には、碑主が那須国造の韋提という人物であったと記されていますが、当時はこれを解読できませんでした。そのため、那須国造の墓という伝承のあった上侍塚古墳と下侍塚古墳を碑主の墓と想定し、発掘を行ったのでした。

発掘は元禄5（1692）年2月に行われ、多数の副葬品が出土しましたが、碑文との関わりを示すものは見つかりませんでした。光圀は出土資料を、記録を取った後にそれぞれの古墳に埋め戻すよう命じました。また、墳丘を修復して周囲に松を植えるなど、古墳の整備も行わせています。

実際には、侍塚古墳（4世紀）と那須国造碑（7世紀）では300年以上の年代差があるため、古墳を発掘しても成果が上がらないのは、ある意味当然です。しかしながら、那須国造碑の保護に始まる光圀の一連の行為は、日本で初めての学術発掘、および現代に通じる文化財の保護であると評価されています。

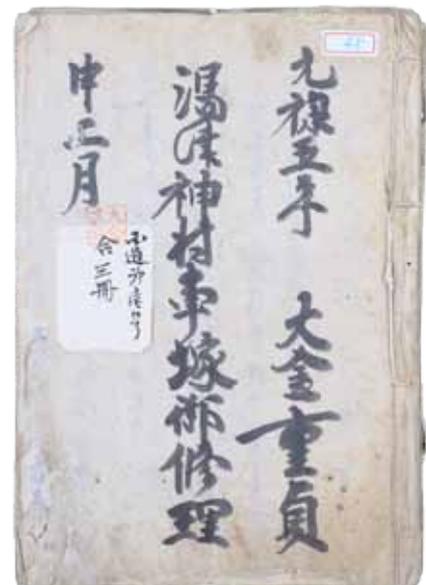


那須国造碑「疑似墨書表現」画像（画像提供：栃木県立博物館）

栃木県立博物館は那須国造碑の三次元計測を行い、そのデータをもとに石碑の表面から0.4mm奥に入った部分の画像を作成しました。イメージ的には碑の表面に薄く鉋をかけたものになります。実物は国宝なので、このようなことはとてもできませんが、三次元のデータ上では可能になります。この処理を行うことによって、風化で角が丸くなっている文字の輪郭がシャープになり、非常に読みやすくなりました。

左の図ではさらに文字のない部分を白くしているので、あたかも墨で文字を書いたような画像になっています。これを、栃木県立博物館では「疑似墨書表現」画像とよんでいます。

当時は碑文2行目・4文字目からの「那須直韋提」を「那須宣事提」と読み、「宣事提」を人名ではなく官職と解釈していました。そのため、石碑には碑主の名が刻まれてないと考え、侍塚古墳の発掘に至ったわけです。



大金重貞『湯津神村車塚御修理』表紙 個人蔵
（展示資料は複製品 大田原市教育委員会蔵）

上・下侍塚古墳の報告書です。この書には古墳の規模、遺物の出土位置や種類等が記載されています。遺物については、水戸藩から派遣された絵師が描いたものを模写して載せています。日本で最初の発掘調査報告書といえる内容です。

なお下侍塚古墳については、9m下の旧表土まで掘り下げているので、そこから土器などが出土したという記載があります。古墳が造られる前に、この場所には住居等があったのかもしれませんが。



『湯津神村車塚御修理』出土品を記載した部分

『御修理』は表紙も入れて 23 ページで構成されています。前書きがあり、次に那須国造碑の碑堂設置の経緯が記された後、7 ページ目からが古墳発掘の記録になります。図版は 11 ページ目から始まり、上の写真 a が p .11、b が p .12、c が p .17 です。

a は銅鏡で、大きさが 5 寸 2 分 (約 16cm)、色は赤銅色をしていると記されています。下侍塚古墳出土。

b は壺(「花ビン」と記述)で、奥朱の色をしていると記されています。p.7 で紹介している、昭和 50 (1975) 年に下侍塚古墳の周溝を調査した時に出土した有段口縁壺とよく似た特徴を持っています。下侍塚古墳出土。

c の上は銅鏡で a と同じく赤銅色をしていると記されています。中は砥石のような色で底がなく(中空)、よくわからないものとの記述があります。これは恐らく石釧ではないかと考えられます。下は焼物(陶器)の管と記されていますが、恐らく管玉で、2 点出土しました。他のページには高環や鉄刀、鉄鏃などと考えられる遺物が掲載されていて、古墳には様々な副葬品が納められていたことがわかります。これらのうち、c に掲載されている石釧は、栃木県では初の出土例になります。

なお、a の右下に「上塚」、c の右下に「下塚」と記されていて、前者が下侍塚古墳、後者が上侍塚古墳に該当します。これは調査当時、那珂川の川上にある下侍塚古墳を「上塚」、下流にある上侍塚古墳を「下塚」とよんでいたためです。下流にあるのに上侍塚古墳となった由来について、重貞は自伝の『重昭童依調年記』の中で、上侍塚古墳の方が都に近いため「上」とよぶのだろうと推定しています。

コラム 1

最初の学術発掘

元禄 5 (1692) 年の侍塚古墳の発掘は、本文中でも述べたように日本で最初の学術発掘でした。一方、近代以降で最初とされているのは、明治 10 (1877) 年の大森貝塚(東京都)の発掘です。この調査は、当時東京帝国大学の教授だったエドワード・モース(アメリカ人)によって実施されました。では、近代以降で日本人による最初の学術発掘はどこで行われたのでしょうか。

それは足利公園古墳群(足利市)です。明治 19 (1886) 年に坪井正五郎によって調査されました。坪井は後に東京帝国大学の教授に就任しますが、当時は大学院生でした。この古墳群は古墳時代後期に築造され、現在では前方後円墳 1 基と円墳 9 基が残っています。坪井はそのうち 2 基の円墳(1・2 号墳)について、遺物の出土状態を記録しながら調査を行いました。そして報告書には遺構や遺物が詳細に記載されるとともに、それらの図面が掲載されています。このような調査および報告書は、当時としては画期的なものでした。



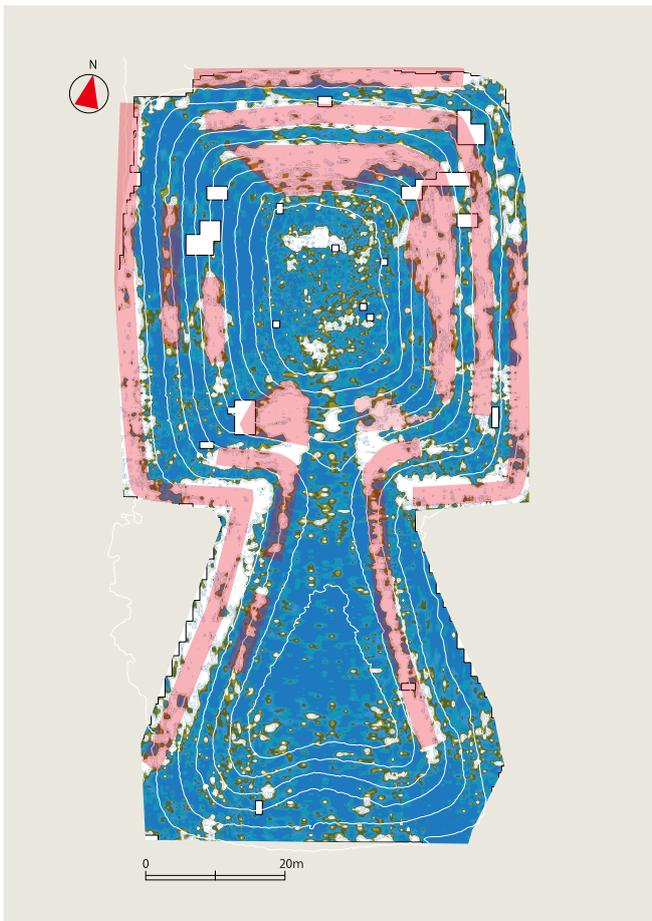
足利公園古墳群 1 号墳 写真提供: 足利市教育委員会

II 栃木県埋蔵文化財センターによる侍塚古墳の調査

当センターでは、県内にある重要な遺跡の調査研究とその活用を目指した「いにしえのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」事業の一環として、栃木県の委託を受け、侍塚古墳（上侍塚古墳・下侍塚古墳）の調査を行っています。初年度となる令和3（2021）年度は、侍塚古墳と周辺の航空レーザ測量、上侍塚古墳の発掘調査、下侍塚古墳と上侍塚古墳の地中レーダ探査などを行いました。

上侍塚古墳の発掘では、周溝部にトレンチ（試掘坑）を設定して調査を行いました。その結果、古墳の表面が川原石を用いた葺石^{ふきいし}で覆われていることがわかりました。また、周溝は西・北・南側に造られていて、約20mの幅、西側の一番深いところで約2mの深さがあることがわかりました。東側は西側と異なり、表土直下に砂礫層^{されきそう}があるため、ここまで掘った状態でやめています。砂礫層が硬いためこの部分に周溝を造ることを断念したのだと思われます。地中レーダ探査では、上侍塚古墳の後方部墳頂付近に掘り込みがあること、古墳が前方部2段、後方部3段で築造されていることなどがわかりました。後方部の掘り込みが元禄5（1692）年の発掘調査の跡かどうかについては、現時点では不明です。

令和4年度は、上侍塚古墳の周溝部に加え、後方部墳丘の調査も行うことになりました。10月から始まったためまだ具体的な成果はありませんが、今後後方部の調査が進めば、葺石や段築の状況も明らかになることが期待されます。また、土器等の遺物が発見されれば、古墳の編年的な位置づけに大きな進展がもたらされることでしょう。今後の成果にご期待ください。



上侍塚古墳地中レーダ探査図

石などの反射しやすい物質があるところが白く表現されています。地下25～75cmの状況をあらわしたもので、赤いラインを引いたところが石の部分（葺石）、その間の青いところは土の部分です。通常、葺石は斜面部に敷かれるので、この古墳では前方部が2段、後方部が3段に築造されていることがわかります。



上侍塚古墳くびれ部東側の調査状況

手前が墳丘側。見えている石は、もともとは墳丘にあった葺石が古墳の裾へ転落したものです。



竪穴建物跡（白線部分）

焼失した建物跡で、上侍塚古墳周溝の南で発見されました。一辺約6mで、出土した土器から、古墳と近い時期のものと考えられます。

Ⅲ 栃木県の前方後方墳

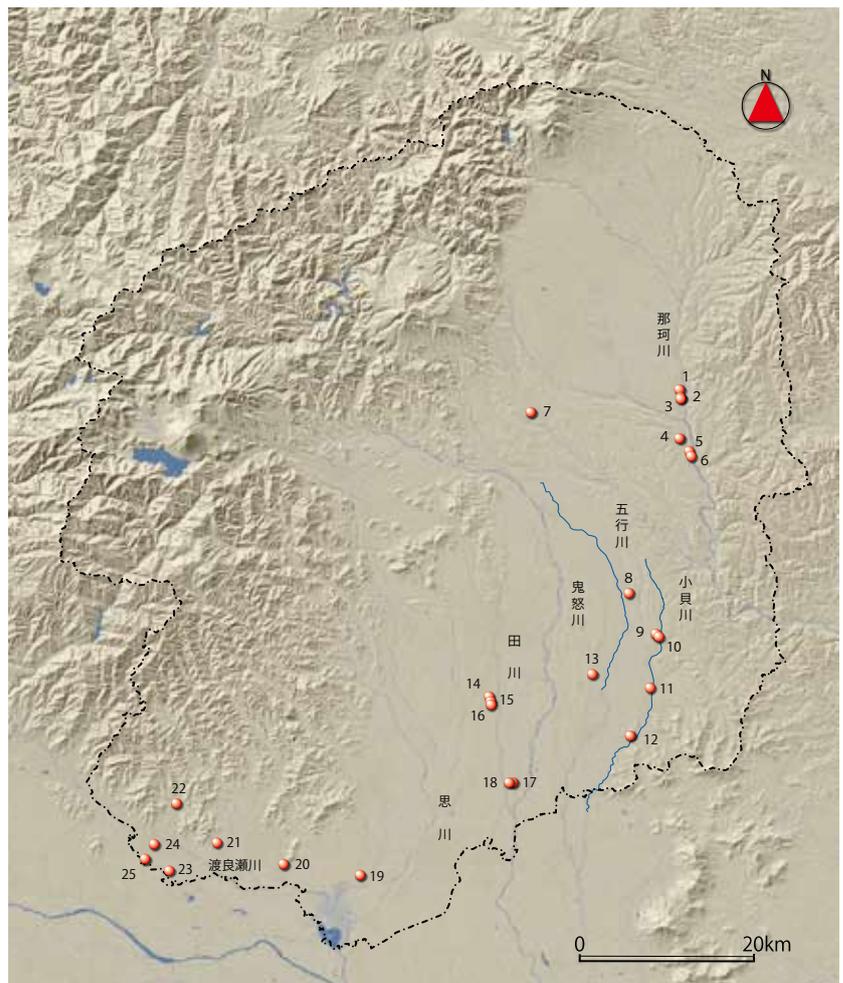
古墳時代はおよそ3世紀中頃から7世紀頃まで続き、この時代に造られた墳丘を持つ墓のことを古墳とよんでいます。古墳の被葬者はその地域の支配者（首長）と考えられています。古墳の平面形は基本的に丸（円墳）か四角（方墳）、あるいはこれらを組み合わせたものになります。そして前方後円墳は方墳と円墳を組み合わせたもの、今回取り上げている前方後方墳は方墳と方墳を組み合わせたものになります。

前方後方墳は、全国で約450基が見つかっています。そしてそれらは、ごく一部を除き古墳時代の前期（3・4世紀）に造られています。また、分布は東日本に多い傾向が見られます。

栃木県では、可能性のあるものも含め25基の前方後方墳が確認されています（下表・図）。分布図を見ると、大まかには水系に沿った地域的なまとまりが認められます。中でも那珂川流域や田川流域では、大きな古墳が隣接して複数造られていることから、古墳の周辺地域を同系列の首長が2代から3代続けて支配していたことが想定されています。

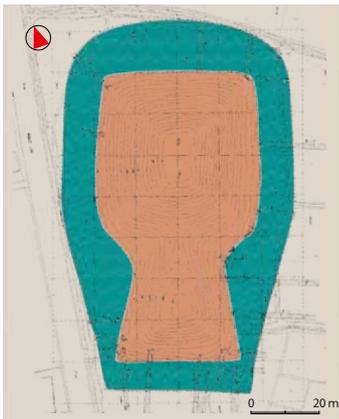
栃木県の前方後方墳から出土した土器には、東海地方（愛知県）や南関東地方（神奈川県）でみられる土器の特徴を持つものがあります。そのため、古墳の被葬者がこれらの地域と何らかの関わりがあったことが指摘されています。ただ、具体的にどう関わっていたのかについては、被葬者の出自等も含め十分に明らかになっていないのが現状です。

No.	古墳名	所在地	全長 (m)
1	下侍塚古墳	大田原市湯津上	84
2	上侍塚北古墳	大田原市湯津上	48.5
3	上侍塚古墳	大田原市湯津上	114
4	駒形大塚古墳	那珂川町大字三輪字駒形	60.5
5	吉田温泉神社古墳	那珂川町吉田温泉前	47
6	那須八幡塚古墳	那珂川町大字吉田字八幡	60.5
7	木幡神社古墳	矢板市木幡	52.6
8	ハツ木浅間山古墳	芳賀町八ツ木・南窪富士山	57
9	上根二子塚1号墳	市貝町大字上根字二子塚	33.2
10	上根二子塚3号墳	市貝町大字上根字二子塚	41.7
11	星の宮浅間塚古墳	益子町瑞字星の宮	52
12	山崎1号墳	真岡市根本字山崎	33.4
13	西高橋亀の子塚古墳	芳賀町西高橋	56.3
14	茂原権現山古墳	宇都宮市茂原町	63
15	茂原大日塚古墳	宇都宮市茂原町江面	35.8
16	茂原愛宕塚古墳	宇都宮市茂原町江面	50
17	三王山南塚1号墳	下野市大字三王山	52.5
18	三王山南塚2号墳	下野市大字三王山	50
19	山王寺大樹塚古墳	栃木市藤岡町大字姪沼	96
20	松山古墳	佐野市越名町	44.4
21	駒場5号墳	足利市駒場町	15
22	菅田西根5号墳	足利市菅田町字西根	11.9
23	松持山古墳	足利市県町松持山	58
24	根本神社古墳	足利市朝倉町	現存24
25	藤本観音山古墳	足利市藤本町	117.8



栃木県内の前方後方墳

前方後方墳の定義には諸説ありますが、ここでは後方部前端を区画しないものの一部（No.21・22）、および未調査ではあるが前方後方墳の可能性のあるもの（No.7・23・24）も含めています。



本古墳は全長が約 84m で、那珂川右岸の段丘上に築造されています。昭和 50（1975）年に周溝の発掘調査が行われました。その結果、周溝が墳丘の全周に造られていること、川原石を用いた葺石が墳丘の立ち上がりの部分からみられることなどがわかりました。また、周溝からは、底に孔を開けた土師器の壺（右写真）などが出土しました。この壺は、前章で紹介した『湯津神村車塚御修理』に掲載されている壺と非常によく似ており、もともとは墳丘上に置かれていたものと考えられます。



下侍塚古墳出土土師器有段口縁壺
大田原市教育委員会蔵



本古墳は全長が約 114m で、下侍塚古墳の南方約 800 m のところに築造されています。県内では、後に紹介する足利市藤本観音山古墳（117.8 m）に次いで、二番目に大きな前方後方墳です。本格的な調査はこれまで行われておらず、今回の調査が初めてとなります。今後の調査より古墳の正確な大きさがわかれば、この順位が逆転するかも知れません。これまでの成果は、先に記したとおりです。なお、本古墳の北方約 50 m のところに全長約 48.5 m の上侍塚北古墳があります。下侍塚古墳も含めたこれらの古墳築造の先後関係については、ここでは上侍塚北古墳→上侍塚古墳→下侍塚古墳としています（p.13 の編年図参照 今後順序が入れ替わる可能性あり）。

コラム2

古墳調査の新技术

古墳の等高線図の作成や、石室・葺石などの図化は、手作業では膨大な時間と労力がかかります。そのため、これまで様々な機材や手法を導入することにより作業の省力化が図られてきました。

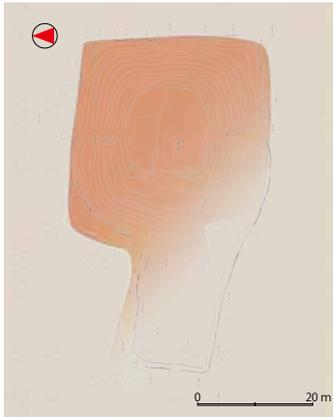
そういった中、近年注目を集めているのが三次元計測です。三次元計測は他の測量機材を用いた場合に比べ、計測時間を大幅に短縮することが可能です。また計測によって得られたデータには高さの情報も含まれているため、等高線図を容易に作成できます。石室などの場合は、データをオルソ（正射投影）画像として出力し、それをトレースすることで簡単に図面に仕上げることができます。このように三次元計測は、古墳などの大型で複雑な遺構を図化する際には、非常に有効な手段といえるでしょう。



小山市西高橋遺跡竪穴式石室（SZ-78）オルソ画像

駒形大塚古墳

那珂川町



本古墳は全長が約 60.5 m で、^{ごんづがわ}権津川（那珂川支流）の左岸の台地上に築造されています。昭和 49（1974）年に発掘調査が行われました。その結果、後方部に造られた埋葬施設から、^{がもんたいしじゅうまよう}画文帯四獣鏡・^{どうぞく}鉄刀・^{どうぞく}鉄剣・^{どうぞく}銅鏃・ガラス小玉等の副葬品が発見されました。また、墳丘からは^{はじき}土師器の壺・^{たかつき}高坏・器台などが出土しました。これらの遺物などから本古墳の築造は、3 世紀後半と考えられ、本県では最も古い古墳のひとつに数えることができます。

この地域の前方後方墳は他に^{よしだゆげんじんじゃ}吉田温泉神社古墳、^{なすはちまんづか}那須八幡塚古墳があり、この順番で築造されたと考えられています。



駒形大塚古墳遠景（北東上空から） 写真提供：栃木県立博物館



駒形大塚古墳埋葬施設 写真提供：那珂川町教育委員会

那須八幡塚古墳

那珂川町



本古墳は全長が約 60.5 m で、那珂川とその支流の^{ごんづがわ}権津川の合流点付近に築造されています。昭和 28（1953）年と平成 3（1991）年に発掘調査が行われました。このうち昭和 28 年の調査では、後方部に造られた埋葬施設から^{ほうきよう}鳳鏡・^{のこざりやりがんな}鉄剣・^{のこざりやりがんな}鋸・^{のこざりやりがんな}鉈・^{のこざりやりがんな}斧・^{のこざりやりがんな}管玉などが発見されました。また、墳丘斜面に^{ふきいし}葺石があることや、周溝も確認されました。平成 3 年の調査では、墳丘や周溝から^{はじき}土師器の壺・^{たかつき}高坏・器台などが発見されました。これらの遺物などから、本古墳の築造は 4 世紀中頃と考えられます。



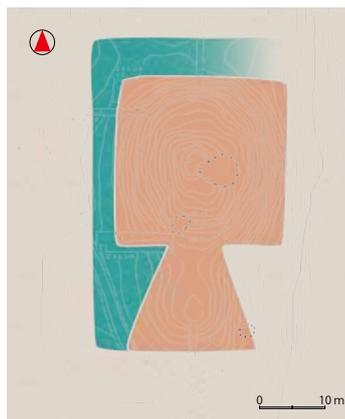
那須八幡塚古墳遠景（北西上空から） 写真提供：那珂川町教育委員会
古墳のすぐ上に見えるのは那珂川です。



那須八幡塚古墳後方部北側葺石と周溝
写真提供：那珂川町教育委員会

かみねふたごづか 上根二子塚3号墳

市貝町



本古墳は全長が41.7 mで、大川（小貝川支流）を西に望む丘陵の平坦部に築造されています。昭和62（1987）年に発掘調査が行われました。その結果、周溝が古墳全体をめぐらず、西側にのみ掘られていることがわかりました。また遺物としては、くびれ部周溝底面からベンガラを入れた土師器の甕が出土しました。古墳の葬送儀礼に関わるものと考えられています。

なお、本古墳から北西約120 m離れて、やはり前方後方墳の1号墳があります。全長は約33.2 mで、丘陵の斜面上に築造されています。先後関係については、ここでは1号墳→3号墳としています。



上根二子塚3号墳西側くびれ部 『報告書』より転載
手前が後方部南西隅になります。



上根二子塚3号墳西側くびれ部土器出土状況 『報告書』より転載
左写真の中央奥に見えている土器です。

やまざき 山崎1号墳

真岡市



本古墳は全長が約33.4 mで、小貝川と支流の赤堀川に挟まれた丘陵（根本山）の南端部付近に築造されています。昭和57（1982）年に発掘調査が行われました。その結果、後方部墳頂中央に埋葬施設が発見されました。埋葬施設は、長さ約7 m、幅約3 mの土坑に鹿沼軽石を敷き詰めて槨とし、その中に長さ約3 mの割竹形木棺を納めたものと推定されています。棺内からは鉄剣・鈿・管玉が出土しました。また、周溝は古墳の東側にのみ掘られていることがわかりました。周溝からは土師器が数点出土していますが、これらは後方部墳頂付近から流れ込んだものと考えられます。



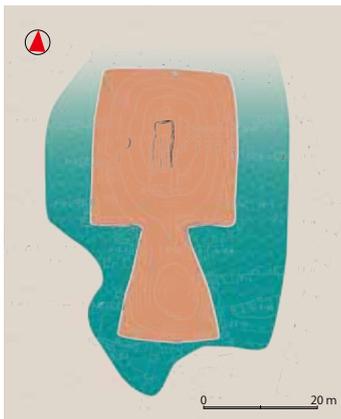
山崎1号墳鉄剣出土状況
栃木県立なす風土記の丘資料館2013より転載



山崎1号墳埋葬施設 栃木県立なす風土記の丘資料館2013より転載
中央の黄色い部分が鹿沼軽石を敷き詰めた槨です。

もばらあたごづか 茂原愛宕塚古墳

宇都宮市



本古墳は全長が約 50 m で、昭和 52 (1977) 年に発掘調査が行われました。その結果、後方部中央で長さ約 6.3 m の舟形木棺^{ふながた}と考えられる埋葬施設が発見されました。棺の底面からは鏡・櫛・管玉・ガラス小玉などが出土しました。

なお、本古墳の北西約 100 m のところに、茂原大日塚古墳 (約 35.8 m)、そこから北西約 250 m のところに茂原権現山古墳 (約 63 m) が築造されています。これらも前方後方墳で、大日塚古墳→愛宕塚古墳→権現山古墳の順に築造されたと考えられています。代を重ねるごとに墳丘規模が大きくなる様子が見て取れます。



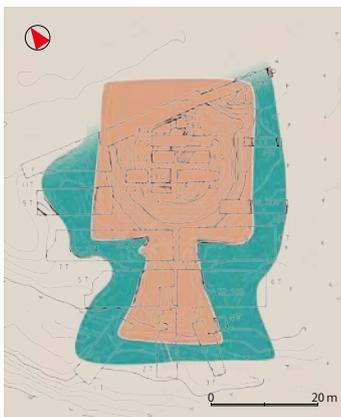
茂原古墳群遠景 (東上空から) 写真提供: 栃木県立博物館



茂原古墳群遠景埋葬施設 写真提供: 宇都宮市教育委員会

さんのうやまみなみづか 三王山南塚 2 号墳

下野市



本古墳は全長が約 50 m で、田川と江川 (ともに鬼怒川支流) にはさまれた舌状台地の端部付近に築造されています。平成元 (1989) 年度に発掘調査が行われました。その結果、周溝から土師器と弥生土器^{はじき}が出土しました。また古墳が、弥生時代の住居がまだ埋まりきらないうちにその上に造られていることもわかりました。これは、本古墳が県内でも最古級の古墳であることを意味しています。

なお東隣には、同じく前方後方墳で本古墳に後続して築造されたと考えられている 1 号墳があります。また西隣には、方墳とされる 3 号墳があります。3 号墳は現在発掘調査が進められており、築造時期や墳形も含め、今後の成果が期待されます。



三王山南塚 1・2・3 号墳遠景 (北上空から)
写真提供: 下野市教育委員会



三王山南塚 2 号墳発掘調査状況 写真提供: 下野市教育委員会

山王寺大榭塚古墳

栃木市



本古墳は全長が約96mで、巴波川（渡良瀬川支流）右岸の低位段丘上に築造されています。土取りによる破壊が進み後方の埋葬施設が露出したため、昭和50（1975）年に発掘調査が行われました。その結果、埋葬施設は推定全長約8mの粘土槨であったことがわかりました。粘土槨からは鏡・武器類（鉄刀・鉄剣・銅鏃・鉄鏃）・工具類（鉄斧・鉋・鉄鎌）・ガラス小玉などが出土しました。また、粘土槨の南隣に長さ2.6m以上の土坑があり、そこから鉄剣と土師器の埴が見つかりました。埋葬儀礼に関連するものと考えられています。



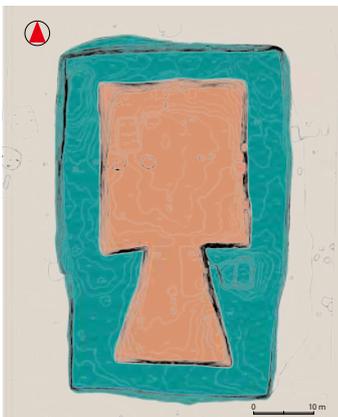
山王寺大榭塚古墳埋葬施設
写真提供：栃木市教育委員会



山王寺大榭塚古墳遠景（北東上空から）写真提供：栃木県立博物館

松山古墳

佐野市



本古墳は全長が44.4mで、三杉川（渡良瀬川支流）右岸の台地上に築造されています。平成7（1995）年度と10（1998）年度に発掘調査が行われました。調査時点で墳丘のほとんどが削平されていたため、墳丘内にあったと考えられる埋葬施設は消失していました。周溝内からは、底部に穴を開けた土師器の壺などの土器が多数見つっていますが、これらは本来墳丘上置かれていたものと考えられています。また前方部周溝南部の外側には、古墳と同時期の大型（一辺8m）たてあなたてもものあと 竪穴建物跡が見つかりました。この建物は古墳祭祀に関わる施設と考えられています。



松山古墳周溝内土師器壺出土状況
底部に孔があいているのがわかります。



松山古墳遠景（東上空から）
古墳の南側（写真では左側）に祭祀施設の可能性がある竪穴建物跡が見えます。



本古墳は全長が 117.8 m で、^{やぼがわ}矢場川（渡良瀬川支流）右岸の台地上に築造されています。昭和 59・60（1984・85）年度と平成 11～15（1999～2003）年度に、計 7 回の発掘調査が行われました。その結果、古墳が後方部 3 段、前方部 2 段で築造されており、後方部 3 段目には、10～20cm 程度の川原石による^{ふきいし}葺石があることがわかりました。また前方部周溝南西部の外側には、周溝に隣接して古墳と同時期の^{たてあな たてものあと}竪穴建物跡群が見つかりました。この建物は、古墳造営に従事した人たちの^{たてあな たてものあと}宿舎や作業場、あるいは資材置き場の可能性が指摘されています。



藤本観音山古墳遠景（南上空から）写真提供：足利市教育委員会



藤本観音山古墳後方部南側葺石出土状況 写真提供：足利市教育委員会

コラム 3

前方後方墳ランキング

右の表は、全長 70 m 以上の巨大な前方後方墳の一覧です。その中でも特に大きい 100 m 以上の古墳は全部で 11 基ありますが、そのうち 5 基が奈良県に所在します。奈良県では、前期最大のものも含め、巨大な前方後円墳が数多く造られています。その傾向が前方後方墳にも当てはまることがわかります。一方、残り 6 基の内訳は、栃木県が 2 基、群馬県・富山県・岐阜県・静岡県が各 1 基ずつとなっています。

次に 70 m 以上の古墳を加えると、最多は同じく奈良県の 5 基、次いで栃木県の 4 基、京都府の 3 基となります。さらに 50 m 以上の比較的大型の古墳を加えると、栃木県が 16 基（p.6 表）、次いで奈良県と京都府が各 7 基となり、栃木県の数の多さが際立っています。規模でみた場合、栃木県は前方後方墳「大国」といえるでしょう。

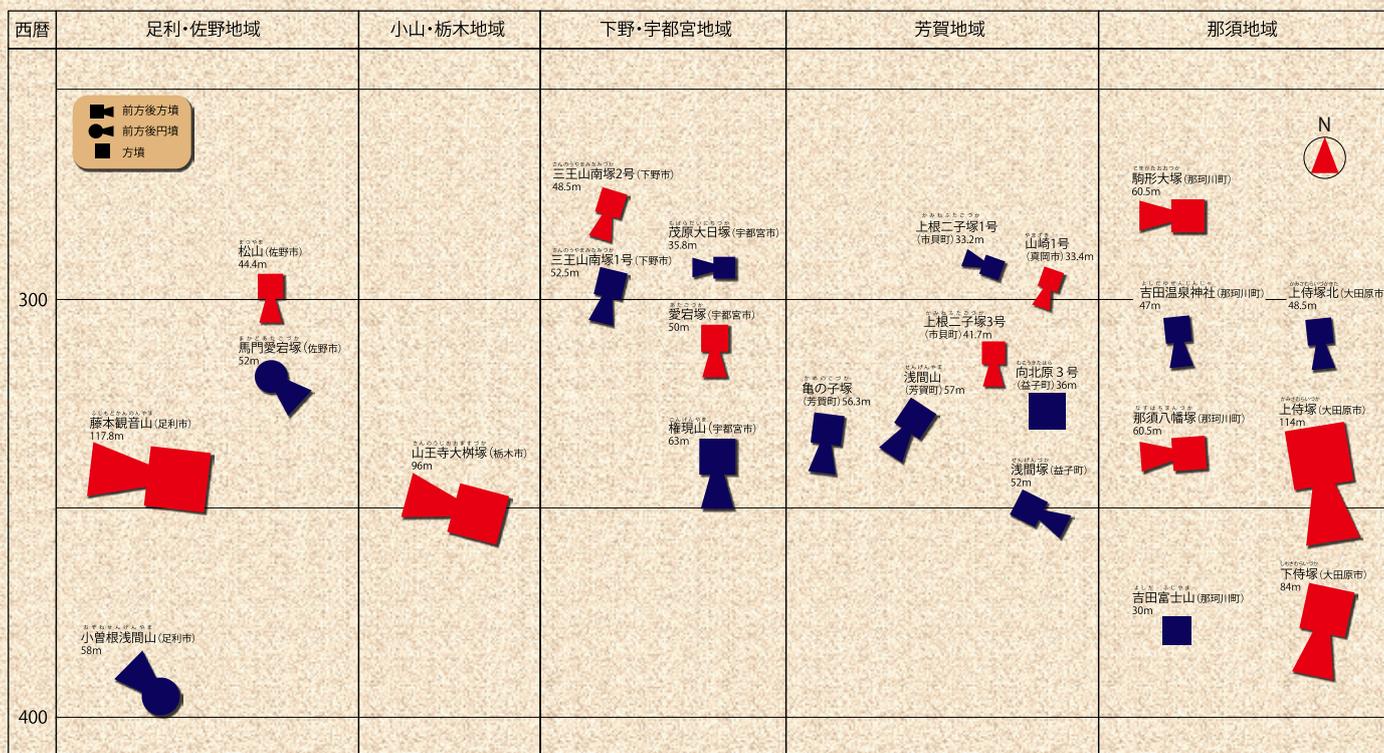
全長 70 m 以上の前方後方墳一覧

全長は m

No.	古墳名	全長	所在地	No.	古墳名	全長	所在地
1	西山古墳	180	奈良県	18	常光院古墳	90	茨城県
2	波多子塚古墳	140	奈良県	19	下侍塚古墳	84	栃木県
3	新山古墳	137	奈良県	20	大安場古墳	84	福島県
4	前橋八幡山古墳	130	群馬県	21	北山古墳	83	岐阜県
5	下池山古墳	120	奈良県	22	桜井二子塚古墳	81	愛知県
6	藤本観音山古墳	117.8	栃木県	23	午王堂山 3 号墳	78.2	静岡県
7	上侍塚古墳	114	栃木県	24	西山 1 号墳	76	京都府
8	フサギ塚古墳	110	奈良県	25	桜井古墳	75	福島県
9	柳田布尾山古墳	108	富山県	26	天神森古墳	73.5	山形県
10	粉糠山古墳	100	岐阜県	27	東之宮古墳	72	愛知県
11	浅間古墳	100	静岡県	28	宮山古墳	72	宮城県
12	山王寺大榎塚古墳	96	栃木県	29	向山古墳	71.4	三重県
13	西求女塚古墳	95	兵庫県	30	大住南塚古墳	71	京都府
14	元稲荷古墳	94	京都府	31	聖陵山古墳	70	兵庫県
15	山代二子塚古墳	92	島根県	32	雨の宮 1 号墳	70	石川県
16	植月寺山古墳	91.5	岡山県	33	勅使塚古墳	70	富山県
17	元島名將軍塚古墳	90	群馬県	34	宝領塚古墳	70	山形県

藤沢 2004 を改変

栃木県内の古墳時代前期の主要古墳編年図



- ・栃木県埋蔵文化財センター 2019「栃木県埋蔵文化財センターだより」をもとに作図
- ・赤色は今回の展示で紹介している古墳です。
- ・なお、古墳の多くは本格的な調査が行われていません。そのため、築造年代等については研究者により諸説あります。

展示資料一覧

資料名	点数	古墳名	所蔵
那須国造碑（複製）	1		栃木県立博物館 原資料 笠石神社
『湯津神村車塚御修理』（複製）	1		大田原市教育委員会 原資料 個人
土師器 有段口縁壺	1	下侍塚古墳	大田原市教育委員会

資料名	点数	古墳名	所蔵
画文帯四獣鏡	1	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
鉄刀	2	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
鉄剣	2	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
刀子	1	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
銅鏃	6	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
鉄斧	1	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
鉈	1	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
ガラス小玉	1 式	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
土師器 壺	1	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
土師器 鉢	1	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
土師器 高坏	1	駒形大塚古墳	那珂川町教育委員会
き鳳鏡（複製）	1	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
鉄剣（複製）	1	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
けずり小刀（複製）	1	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
鉄鎌（複製）	1	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
間透（複製）	1	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
鉄斧（複製）	2	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
鉈（複製）	2	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
鋸（複製）	1	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
管玉	2	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
土師器 壺	3	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
土師器 埴	1	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
土師器 器台	1	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
土師器 鉢	1	那須八幡塚古墳	那珂川町教育委員会
土師器 壺	3	上根二子塚 1号墳	市貝町教育委員会
土師器 甕	1	上根二子塚 3号墳	市貝町教育委員会

資料名	点数	古墳名	所蔵
土師器 台付甕	1	山崎1号墳	真岡市教育委員会
土師器 埴	1	山崎1号墳	真岡市教育委員会
土師器 高坏	2	山崎1号墳	真岡市教育委員会
銅鏡	1	茂原愛宕塚古墳	宇都宮市教育委員会
管玉	5	茂原愛宕塚古墳	宇都宮市教育委員会
ガラス小玉	2	茂原愛宕塚古墳	宇都宮市教育委員会
土師器 壺	1	茂原愛宕塚古墳	宇都宮市教育委員会
土師器 壺	2	三王山南塚2号墳	下野市教育委員会
四神鏡	1	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
鉄刀	1	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
鉄剣	5	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
鉄鏃	3	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
銅鏃	7	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
鉈	1	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
鉄斧	2	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
鉄鎌	2	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
刀子	1	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
管玉	2	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
ガラス小玉	1連	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
土師器 埴	1	山王寺大柵塚古墳	栃木市教育委員会
土師器 有段口縁壺	5	松山古墳	佐野市教育委員会
土師器 高坏	1	松山古墳	佐野市教育委員会
土師器 有段口縁壺	1	藤本観音山古墳	足利市教育委員会
土師器 壺	1	藤本観音山古墳	足利市教育委員会
土師器 台付甕	1	藤本観音山古墳	足利市教育委員会
土師器 高坏	1	藤本観音山古墳	足利市教育委員会

- 大田原市なす風土記の丘湯津上資料館 2022 展示図録『日本考古学発祥の地』
 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 1987 展示図録『古墳出現期の社会』
 栃木県立なす風土記の丘資料館 2013 展示図録『われ、西より来たりて那須の地を治める！』
 栃木県立なす風土記の丘資料館小川館 1993 展示図録『前方後方墳の世界』
 栃木県立なす風土記の丘資料館小川館 1997 展示図録『前方後方墳の世界Ⅱ』
 栃木県立博物館 2014 『県内文化財の三次元計測』
 藤沢 敦 2004 「前方後方墳の変質」『古墳時代の政治構造』 pp.216-234

謝 辞

今回の特集展示の開催ならびにリーフレットの作成にあたり、多くの方々および関係諸機関に多大なるご指導・ご協力をいただきました。ここにご芳名を記し、深く感謝の意を表します（五十音順 敬称略）。

個 人

伊藤克夫 上野修一 大金重晴 小澤美和子 今平利幸 金子智美 斎藤糸子 佐藤 弘 鈴木志野 島田左智夫
 長瀧豊和 初井光平 茂木克美 安永真一 梁木 誠 山口耕一

機 関

足利市教育委員会 足利市郷土資料展示室 市貝町教育委員会 市貝町歴史民俗資料館 宇都宮市教育委員会
 大田原市教育委員会 大田原市なす風土記の丘湯津上資料館 笠石神社 佐野市教育委員会
 佐野市郷土博物館 下野市教育委員会 しもつけ風土記の丘資料館 栃木県立博物館 栃木市教育委員会
 栃木市藤岡歴史民俗資料館 とびやま歴史体験館 那珂川町教育委員会 那珂川町なす風土記の丘資料館
 真岡市教育委員会

令和4年度特集展示
 水戸光圀による“御修理”330周年記念
 侍塚古墳と栃木の前方後方墳

編 集 (公財)とちぎ未来づくり財団
 埋蔵文化財センター
 〒329-041 栃木県下野市紫 474
 電話 0285-44-8441(代)

発 行 栃木県教育委員会

発行日 令和5(2023)年1月15日